No.22 G-FIVEスープラRX-6

タイヤもノーマルだけど気合でカバー！

本人いわく「サーキットは初めて」とは思えない走りを見せた富永選手(←だが、数日前の某AMK走行会に他人の名前を使って出場し、TIを密かに練習していたという噂だソ OPT注)。

西日本一決定戦ではブーストを1.3kg/㎠に上げての走行だったが、アクチュエーターのパイプが外れてしまった上、ノーマルのタイヤもかなりツラかったようだ。

ドライバー：富永周一
西日本一決定戦：11位
予選タイムアタック：1分55秒883(17位)

エナペタルの車高調にテインのスプリング。レートはF10kg、R8kg。お金がないのでタイヤ&ホイールはノーマルだ。

オリジナルコンピューターにEVCでブーストを常時1.0kg/㎠、他にスーパーフローというアメリカ製のマフラー以外はノーマルだ。それでもパワーは400ps。

ライトチューンだし、レースやってたのは10数年前だけど阪神高速で鍛えた腕はダテじゃないぜ!?

スピードガレージG5はいすゞチューンで有名だが、いすゞが乗用車生産を中止してからは他メーカーのクルマも手がけている。このスープラはブーストアップと足まわりのライトチューン。

「ライトチューンと素人(↑昔、カスターカップジェミニレースに出てたでしょ やすの注)ドライバーでどこまでいけるかですね。本当はGT-Rの前に出たいんだけど。お金がなくてタイヤもノーマルだし、ま、楽しけりゃいいか」と、若干イジケ気味の富永選手だったが、西日本11位は阪神高速で走り込んでいるおかげか!?

(スピードガレージG5 ☎078-222-3582)

No.40 OBGS GT-R

TIに合わせた足が火を吹くぜ！

いいタイムで日本一決定戦まで進んだが、スタート直後に接触、そのままリタイアとなってしまった。

1周目でリタイアというのにミョーに明るい井上選手。ショックはオーリンズで、普段の2番から10番へと柔らかくしている。オリジナルのスプリングはF7.5kg、R4kgとやはり柔らかめ。タイヤはヨコハマA022(NSXの標準タイヤ)。前後とも225/50-16。ホイールはSSRのMKII-Rだが、面白いことにフロントが9J、リヤが8Jなのだ。アンダー対策でそうしたと言うが、実は9Jを2本忘れてきたダケという事実は誰もが知っていた。

ドライバー：井上典也
日本一決定戦：リタイア(1周目)
西日本一決定戦：5位
予選タイムアタック：1分52秒651(6位)

タービンはノーマルだが、オリジナルのブーストコントローラーは6000rpmを境に1.0kg/㎠から1.7kg/㎠に切り替わる。インジェクターは720cc、インタークーラーはカルソニック、オイルクーラーはHKSだ。パワーは400ps。

キメ細かい燃料設定が速さの秘密だ！

テストランは、サスを比較的柔らかく設定してきた。固いとテールが出てしまうからだそうだ。ショップのお客さんに4AGのオーナーが多く、走行会やジムカーナをひんぱんに行っているだけに、そこらへんのデータは豊富なようだ。

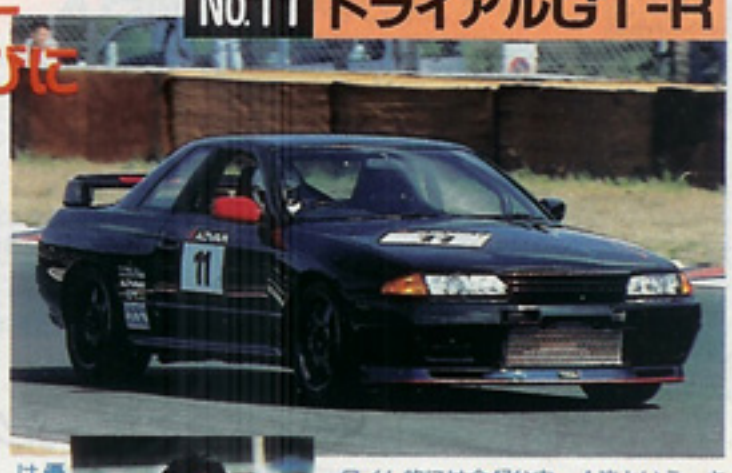
さらにOBGSという燃料調整装置を装着。これはアクセルのON/OFFや、500rpmごとに燃料を調整できるというものだ。ブーストも6000rpmまでは1.0kg/㎠で、それ以上だと1.7kg/㎠に切り替わる。興味深いメカが満載なのだ。

これがOBGSのコントローラー。500rpm単位で、燃料を+59%から−40%まで調整できる。

(テストラン ☎07746-5-2448)

No.11 トライアルGT-R

あ〜ぁ、西日本一決定戦中、砂遊びにふける！



K27-3470のシングルターボ仕様は、H断面コンロッドに264度/264度のカムを組み、450ps/7000rpmを発生。0-300km/h挑戦などの開発マシンとしての宿命を背負ったこのクルマも、今では完全にマッキーのTI用オモチャと化しているのだ。

タイム的には全47台中、4位という、さすがTIサーキットの主だったのに、マッキーはよほど砂場が好きらしい？

優勝狙いやったんやけどなぁ〜。

自慢の007ブレーキ(ブレンボ、しかもゴールドやで)の甲斐もあり、タイム的にはトップに肉薄していたものの……。エア抜きが十分じゃなかったためにブレーキが抜けたとは、ブレンボもトホホだ。

ドライバー：マッキーボケ原(牧原道夫)
西日本一決定戦：リタイア(5周目)
予選タイムアタック：1分52秒134(4位)

豪邸1軒分のマッキーGT-R 気合の入り過ぎで西日本一決められず

「エエなぁ〜、決定戦に出られてクヤシュ〜てなぁ〜」と嘆く、マッキー。

なんたって、日本一決定戦への出場をかけた西日本一決定戦中、誰よりもこのTIサーキットのコースを知り尽くしているハズのマッキーは、気合の入り過ぎか、コースアウト。コース復帰できずにその場でリタイア。

「このクルマには、豪邸が1軒、買える程の開発費をつぎ込んどるんに、アカンワ〜！」と、けっこ一本気だったよーだ。

トライアル大推薦のレカロSP-Gに、ウイランズの4点シートベルト、7ポイントロールバーなどにより、かなりレーシーな雰囲気を漂わせている。

(トライアル 南大阪店 ☎0722-54-7039/東大阪店 ☎0729-65-6823)

最年長ローリー雨宮、アドレナリン過多でオカマ掘るが、さすが雨さん、レース後にお詫びで円満解決

同い年のオーテック塚田社長が予選8位と激走するなら、雨さんだって負けちゃいられない。日本一決定戦のスタートは13番手グリッドから、ロケットスタートで7番手へとジャンプアップ。が、2周目、ハーフスピンしている間に3台に刺され、全身の血が頭に集中！ 4周目のヘアピンで、前を行くレイブロス・スープラにオカマ。雨宮FDはエンジンストップでそのままリタイアとなってしまった。

「レーシュだからね、しょーがないんでしゅけど、オカマ掘ったのはボクが悪いんだから、レイズの欺波社長に謝りに行かなくちゃ」とローリー雨宮。

早々にリタイアしてしまい、雨さん、コースサイドでたそがれる、の図。

「気にしないで下さいよ」と初めはかしこまっていた欺波社長も、つい悪ノリして「ガッハッハ」。

和気アイアイの走り屋チューナー日本一決定戦だったのでした。